

## 中国におけるスポーツイベントと都市開発に関する 理論と実態調査

于永慧\*

訳 山本 悦史\*\*

### 要 旨

本研究はスポーツイベントと都市開発との関連を理論的に検討することを目的としている。また、ここでは2010年に開催された広州アジア競技大会を事例として取り上げる。本研究では先行研究に基づく演繹的方法、および実態調査にもとづく帰納的方法によって結論が導き出される。スポーツイベントは都市開発の触媒になっているが、異なる時間、空間、主体のもとでは、そこにもたらされる効果も異なる。第一に、その機能は、時代の変遷とともに国際政治に果たすものから、地方政治、地域経済また社会文化に果たすものへと変化してきている。第二に、その機能は、イギリスのような過去の産業都市の復興や、アメリカに見られるような高度産業都市の繁栄、ドイツにおける都市コミュニティの形成など、それぞれに違いがみられる。2010年の広州アジア競技大会は産業構造の変化と高度化、地域内における中心都市の建設、政府による都市の管理および経営をその目的としていた。そのため、他の都市に比べ、経済的効果よりもその社会的効果のほうが大きいといえるだろう。

キーワード：スポーツイベント、都市経営、2010広州アジア競技大会

---

\* 中国・中山大学

\*\* 立命館大学社会学研究科博士課程後期課程

## 1. 研究背景と方法

近年、国際スポーツイベントの人気はますます上昇する傾向にある。今日ではオリンピックやワールドカップ、アジア競技大会、世界選手権大会など、様々な国際スポーツイベントが大きな話題となり、こうしたイベントに参加することが一つの形式にもなっている。また、それらは都市間競争そのものの性質を変化させている。2004年のアテネオリンピックでは、ギリシャの国民に巨額の債務を負担させる結果を招いたが、大会を通して古代ギリシャの光り輝く偉大な文明というイメージを強くアピールすることで、ギリシャの観光産業や文化産業に大きな収益をもたらした。また、2008年には北京オリンピックが開催され、中国全土で大きな盛り上がりを見せたが、特に北京居住者は交通機関の整備、先端施設を備えた競技場の建設、スポーツ環境の改善などといった多くの利益を得ることとなった。2010年南アフリカワールドカップは、アフリカの人々に歓喜と自信を与えた。そして、2010年広州アジア競技大会においては、競技場の建設やイベント開催のプロセスにおいて従来からの政府主導型の運営モデルを改めた点が評価されたほか、市民のスポーツ参加を促進することで、広州市は市民からの信頼を獲得することもできた。こうしたことは広州に対する新しいイメージの創出と市民の新しいライフスタイルの確立にもつながっている。

国際スポーツイベントに対する認知は、欧米の先進国から徐々にアジア・アフリカの発展途上国や後進国にまで広がり始めている。歴史的な観点からみた場合、近代スポーツに関わるイベントは特定の社会階層が楽しむ娯楽性の強い時代から、第二次世界大戦前後には国際政治の競争時代、さらには高度産業化に伴う商業化と都市間競争の時代へと移行していることがわかる。また、その過程で、国際スポーツイベントの開催権は国家から地域・都市へ、その行動主体は従来のような政府による主導から、政府・企業・民間組

織の三者協同体によるパートナーシップ形式へと変貌しているほか、そこでは地方政府が果たす役割が“都市を管理する役割”から“都市を経営する役割”へと変化している様相も窺える。

今日の地方政府にとって国際スポーツイベントの開催は、都市を発展させていく上での重要な課題となっている。それらの開催は市民からの信頼獲得や都市ブランドの確立、経済発展の促進、政策統合の推進など、多くの面で重要な役割を果たしている。ただし、それらが都市に与えるインパクトは時間や組織、地域によって異なっている (Dunning,E.,1999)。

スポーツイベントと都市開発との間にはどのような関係があるのか。広州アジア競技大会の経験とはどのようなものであったか。こうした内容を明らかにするため、本研究では具体的に、以下の四つの点に関して検討を行う。第一は、時間という観点からのアプローチである。ここではスポーツイベントが都市発展の推進に与える影響について、それらが時代によってどのような違いがみられるのかといった点について検討する。そして第二に、空間という観点からアプローチを行う。それはスポーツイベントを開催する国家や地域が異なった場合に、それらが都市発展に与える効果にどのような違いが生じているのかといった内容に関する検討である。ここでは特に、イギリス、アメリカ、ドイツを中心的な事例として扱う。第三の検討課題は、スポーツイベントの行動主体に関するものである。そこではとりわけ行動主体が果たす役割の変化という点に注目し、それらがスポーツイベントの招致・運営体制にどのような違いを生じさせているのか、またその原因はどういったところに見出すことができるのかといった点について検討する。最後に第四の検討課題として、それまでの検討内容を踏まえた上で、スポーツイベントの開催と都市開発との間に働く論理とはいかなるものかということについて検討を行う。

続いて、本研究の方法についても説明を行っておく。まず、先に挙げた第一から第三の検討課題については、文献を中心とした資料収集を通じて先行

研究の整理を行ったうえで、時間・空間・行動主体といった3つの観点から、スポーツイベントと都市開発との間に存在する論理を演繹的に明らかにすることを試みる。そして第四の検討課題に関しては、2010年に開催された広州アジア競技大会を事例に、スポーツイベントが都市開発の触媒として機能しているという点について論じることとしたい。

## 2. 都市開発の触媒としてのスポーツイベント

### ・時間という観点からのアプローチ

近代スポーツにおける国際スポーツイベントは、初期の先進資本主義国に起源している。技術進歩と工業生産が人々に多くの富をもたらし、そのライフスタイルを劇的に変化させたことでエンターテインメントは西欧人の生活において重要な役割を果たすようになった。しかし、早期産業化を遂げた都市の一部が経済不況に陥り、景気回復が目指されていく時期においては、スポーツ大会は他の博覧会や展覧会と同様に、都市を復興させるための一つの手段とされた。一方、産業化の後期段階に入った一部の都市では、海外に拠点を移した製造業にかわり、近代サービス業が都市の経済を支えるようになった。スポーツは近代サービス業の重要な構成要素と見なされ、雇用、観光、消費などを推進することが期待されるようになった。

この時期、国際スポーツイベントの招致をめぐる競争は諸国家間で行われるものであった。オリンピックを例にとるならば、それらは国際政治とも強く結び付いており、開催国はオリンピックの開催をきっかけに、総合的な国力や国家思想、民族文化を全世界に対してアピールする機会を得ることができた。1950年代から1980年代半ばまで、オリンピックのような国際大会は、政治体制や国家主権、さらには国家威信といった要素が複雑に絡み合うものであった。この時期にはオリンピック開催国の政治的な意図もますます明確なものとなり、国家の政治的利益をオリンピックに求め、大会は国家の政治

的な目的を実現するための道具と化した（任海，2006）。

実際に、東京オリンピックは戦後の日本に対し、国際的地位を再建するための機会を与え、1988年のソウルオリンピックの開催は韓国国内における政治の民主化のプロセスを促進したことで、韓国の国際的地位を向上させることにつながった。

また、1980年代のアメリカでは、150年の歴史を持つ野球を除けば、ポロやカヌー、テニスなどといった多くのスポーツは主に富裕階層や男性が行うものとして位置づけられていた（Kurkjian, Tim.,2000）。その後の数十年間には、プロスポーツの成長とそれに伴う商業主義が人々のスポーツ参加を促進し、それによってスポーツイベント、特にプロスポーツに関わるイベントは地方政府の関係者からより大きく注目されるようになっていった。こうしてスポーツイベントは1980年代から1990年代にかけて急速な発展を遂げた。その一方で、スポーツのプロ化および商業化の進行は、スポーツが都市開発のための新たな経済活動のツールとして位置づけられていくうえでの重要な契機となった。

スポーツイベントの開催権をめぐる競争はアメリカに始まり、西ヨーロッパ諸国へと波及していくなかで、地方政府はますますスポーツイベントの招致に情熱を注ぐようになった（Kurkjian, Tim.,2000）。その理由としては、以下の二つの内容を挙げることができる。第一に、スポーツイベントの開催は都市のイメージ向上に役立つからである。第二に、スポーツ大会は都市のインフラ設備や公共サービスを発展させる機会を提供するからである（Michalis Kavaratzis, 2004）。産業化を遂げた都市は、ポストモダンの魅惑的な都市となっており、これらの都市はレクリエーションやエンターテイメント・ビジネスの発展を特徴としている。（John Hannigan,1998）。コモディティ化された文化活動としてのスポーツは、都市空間を拡大させ、都市が世界における競争力を高めることに貢献してきた（Misener and Mason,2006）。20世紀のアメリカでは、ビジネスチャンスの拡大を求める多くの企業家や

スポーツ選手によって、スポーツを贅沢なレクリエーションからアメリカを象徴するポピュラーな文化へと変質させることが試みられてきた (Gildea 1999)。その過程でNHL、NBA、MLB、NFLといったアメリカの4大プロリーグ、イングランド・プレミアリーグ、FIFAワールドカップなどのような世界的スポーツイベントは、国家や地域経済の発展を推進する主要な手段の一つとなっていった。地方政府はスポーツイベントを利用して都市の経営と管理を行うことで、都市の影響力を強め、都市に対する注目度を高め、都市の良好なイメージを取り戻し、市民からの信頼を獲得することを可能にした。

今日のスポーツが国家や都市の経済発展に貢献するほどの影響力を持ち始めているということは、もはや言うまでもない事実であるといってよい。スポーツ文化が普及し、スポーツに参加する団体の数も増加する一方で、国家や地域はスポーツを利用し、大国意識を形成することで、わが国、あるいはわが地域の政策が優れていることを誇示しようとする。こうしたことからスポーツのもつ政治的な機能は、現代においても決して弱まっていないということが読み取れよう。アメリカの人々はスポーツによって創出される価値を重要視しており、チームワーク、個性の創出などを通じて、マス・メディアや社会、教育、経済発展に結び付けようとするのである (Chris Gratton and Ian P. Henry, 2001)。

OECD諸国では、スポーツは経済を発展させるための一種の手段として利用され、スポーツ産業はGDPの3%を占める。また、スポーツは国民のライフスタイルにおける一要素として位置づけられる。全世界3分の2の人々が1996年アトランタオリンピックの試合の一部をテレビ観戦したというのもその例であるといえよう (Chris Gratton and Ian P. Henry, 2001)。

スポーツはもはや国家政策あるいは地域政策の道具と化しているが、スポーツと政治との関係は国家や国家間という国際的な次元から地域・都市といった次元へと変化しつつある (Chris Gratton and Ian P. Henry, 2009)。スポーツはますます経済的、政治的、文化的に意義をもった存在として見なさ

れるようになった。スポーツイベントの招致競争は次第に都市のガバナンス構造に組み込まれるようになり、スポーツの政治的・経済的・文化的意義は、都市の管理システムを補完するために利用されるようになっていく（Sala and Paruelo, 1997）。

また、スポーツイベントの招致競争は、都市間の競争を反映するものでもある（Cochrane, Peck and Tickell, 1996）。多くの研究者はスポーツイベントの開催に伴うスポーツ施設の建設と経済成長との関係を検討している（Baade and Dye, 1990；Baade, 1996；Noll and Zimbalist, 1997；Coates and Humphreys, 1999）。スポーツイベントの経済的・政治的・文化的意義は、それぞれポジティブな側面とネガティブな側面を有しているという意味で、いわゆる“諸刃の剣”として理解することが可能である。その際、都市をスポーツイベント開催に向かわせるための推進力は、このうちの経済的意義にあるとする見解も存在する（Malfas et al., 2004：218）。スポーツイベントのポジティブな意義は、その開催が雇用や消費を促進することにも見出すことができるのである（Hiller, 1989：119）。

したがって、地方政府の主要な関心は、公共福祉サービスとしてのスポーツよりも、むしろスポーツイベントの開催に伴うスタジアム建設、ツーリズムの推進、地域内部における投資の促進を通じた都市のマーケティングに集中することとなった（Chris Gratton and Ian P. Henry, 2001）。スポーツリーグやオリンピック誘致はその典型的な事例であるといえよう（Johnson and Whitehead, 2000）。

時間という観点から、スポーツイベントに対する歴史的なアプローチを行った場合、それらがもつ機能に関しては、以下の三つの特徴を挙げることができる。第一に、スポーツイベントのもつ政治的な機能は弱くなっているとはいえないが、他方でその形式には変化がみられる。具体的に、その目的は政治的な主導権争いから政治的な交流へと移っており、その行動主体が国家から地方政府へと移行することで、その機能も「国家の国際的な地位を高

めるための道具」から「都市を管理するため道具」へとシフトしている。

第二に、スポーツイベントの経済的な機能は強まっていく傾向にあり、その内容はより豊富化されつつある。今日のスポーツイベントの開催に伴う経済効果は、従来のチケット販売、スポンサーシップ、放映権料によるものだけでなく、より多様な内容、例えば観光市場や労働市場の開拓、インフラ整備などといった内容にも及んでいる。

第三に、スポーツイベントの開催を通じた社会的、文化的な交流が頻繁に行われることで、地方政府は市民からの信頼を獲得することを可能にしている。また、西洋と東洋のスポーツが統合されていく過程で、そこに関わるアクターは少数のプロ選手から、地域住民やボランティア、メディアなどといったように多様化していく傾向も窺える。そして、スポーツイベント開催の評価基準に関しても、それらはより大きな経済的効果を求めるといった見方から、社会的効果と経済的効果の両面を重要視するものへと変化してきている。

#### ・空間という観点からのアプローチ

スポーツイベントの招致は今日、先進諸国のみならず、発展途上国においても求められるようになってきている。上述のように、スポーツイベントの機能はこれまでの歴史のなかで次第に変化を遂げてきた。この変化は“国家あるいは民族政治”から“地域あるいは都市のガバナンス”への転換というものである。ところが、それぞれの都市でみられるガバナンスの仕組みには差異が存在している。ここでは都市ガバナンスに関するいくつかの典型的なモデルを示し、スポーツイベントがもつ機能を空間的な観点から検討することにした。

#### イギリスにおける都市の復興

イギリスにおけるスポーツ投資の第二の波は、1980年代後期より始まった。いくつかの都市はスポーツの推進を重視するなかで地域経済の発展を促し、



都市の不動産業に大きな利潤をもたらした (Baade and Matheson, 2004a)。イギリスのほとんどの産業都市は、スポーツイベントの活用によって都市を発展させるというこのような戦略に追随する形で、主要な都市計画を展開していった。そこでは様々なスポーツイベントを開催することで多くの観光客を都市へと招き入れ、凋落しつつあった初期の産業都市の経済を潤すことが目指された (Cochrane et al., 1996 ; Chapin, 2002)。グラスゴー、シェフィールド、マンチェスター、バーミンガムなどといった多くの中心都市では、都市のインフラ整備、とりわけ大型スポーツ施設の建設を通じた都市の経済復興を目的として、スポーツイベントが頻繁に開催されるようになった (Chris Gratton and Ian P. Henry, 2009)。

#### アメリカにおける都市の繁栄

1970年代、1980年代のアメリカにおいて、スポーツイベントは大規模な文化と商業の中心に位置づけられるとともに、都市に繁栄をもたらすための重要なツールとして認識されていた。都市中心部の開発を行うため、スタジアムの建設が都市計画の一部に織り込まれたが、修繕あるいは新設されたスタジアムは、その都市における多くのスポーツイベントの開催を可能にし、プロスポーツチームの定着をもたらした。スポーツイベントの開催は都市のインフラ整備を促進し、都市の繁栄をもたらす。したがって、アメリカの4大メジャープロスポーツリーグの誘致を狙う地方政府は競って豪華なスポーツ施設及び関連施設の建設を行った。

1990年代における30の大型スポーツ施設の建設計画のうちの3分の1がプロスポーツを基盤とした施設であり、合計すると9億ドル超の価値を生み出すに至っているという (Coates, D. and B.R. Humphreys, 1999)。また、これら4大メジャースポーツリーグが所有しているスポーツ施設の55%は公共投資によって建設されたものである。ある政策研究によると、これら20世紀のスポーツリーグが所有するスポーツ施設の経費は20億ドルを超えており、そのうちのおおよそ15億ドルが公共投資によって賄われている (Keating,

1999)。NFL、NBA、MLB、NHL、およびMLSリーグのうち、66%のチームがこれらのスポーツ施設で試合を行っているほか、1990から2000年の間には28%の施設が新設または修繕されている (Bernstein, M.F.,1998)。この時期におけるスポーツ施設の急速な増加は、スポーツ施設を新設することでより多くのプロアスリートの招聘およびプロスポーツチームの誘致を図ろうとした地方政府の努力によるところが大きい (Thornley, 2002)。

以上に示した通り、アメリカの都市がスポーツ施設の建設やスポーツイベントの開催を行う際、その資金の多くは地方政府の公共投資によるものとなっている。また、公的資金の投入以外にも、例えばスポーツイベント開催およびその準備の過程で企業や投資ファンド、青少年スポーツ組織などを動員するといったことがみられる。地方政府は大規模なスポーツ施設を、都市のシンボルあるいは代名詞のようなものと見なしており、これらのスポーツ施設の規模は日を追うごとに拡大している。そのデザインはますます豪華で高額な建設費用を伴うものとなっているが、それでもなお、都市はスポーツ施設の建設競争にのめり込むといった結果を生み出している (Wilbur C. Rich, 2000)。スポーツ施設はスポーツイベントの開催に連動して開発が進められており、それらが都市インフラの整備推進や観光産業などの成長、さらには就業率の増加などにも新たな機会をもたらしている。

#### ドイツにおける都市コミュニティの形成

ドイツにおけるスポーツイベントの開催は、ボランティアや政府の公共サービス部門、企業組織、あるいは個人がスポーツに参加するための多様な機会を生み出している。地方政府は公共サービスとしてのスポーツを提供し、法制度を整備することで市民のスポーツ参加を保障する。また、国際的なスポーツイベントの目的を文化交流におくことで、社会の様々な行動主体が国内のスポーツイベントに関わることを可能にし、社会的弱者のスポーツ権を財政面で保障することに結び付けている。こうしたことは主にスポーツ活動の展開とスポーツ施設の建設にも表れているといえよう。同時に、そこ

では全ての面において地方自治が重んじられ、地域コミュニティの形成が目指されている (Bowers, Stephen R., 1976)。

ドイツのハンブルグは伝統的に大規模なスポーツイベントが開催されてきた都市であり、住民たちはこれらを民族的祭事のようにみなしている。テニスのマスターズ・シリーズのほか、ゴルフやホッケー、ビーチバレー、マラソン、サイクリングなど、ハンブルグは数多くのスポーツ大会の開催地として定着している。スポーツは人間のレジャーを構成する重要な要素の一つであるといった認識がなされていることから、ドイツスポーツ連盟の目標もスポーツイベントを通じて“スポーツの大衆化”を実現し、都市社会のコミュニティの発展に資することにおかれている (Palm, 1991)。したがって、ドイツではスポーツクラブが地域生活の中心的な位置を占めており、これらのクラブでみられるボランティア組織の存在はドイツ人の社会生活を特徴づける一つの重要な要素となっている (Annette Zimmer, 2010)。このように、ドイツではスポーツイベントが地域コミュニティの形成を促進するとともに、スポーツクラブがその重要な役割を担っている。

#### その他の国家あるいは都市の経済

欧州のその他の国家やオーストラリアにおいても、スポーツイベントの開催やスポーツ施設の建設は頻繁に行われている。その目的は観光産業の発展と都市イメージの向上にあり、産業化を遂げた都市を世界的大都市に成長させることであった (Gratton C., Shibli S. and Coleman R., 2005)。

1980年代の末から1990年代初頭までに欧州各国で開催されたオリンピックに関しては、それらが2万という長期的就業のポジションを生み出し、経済の衰退を緩めるショックアブソーバーのような役割を果たしたという評価がなされている (Dunning, E., 1999)。オーストラリアにおいては、アデレードやメルボルン、ブリスベン、シドニーといったいくつかの都市がスポーツイベントの開催を足掛かりに観光産業を発展させている。

## ・行動主体という観点からのアプローチ

### 公的管理者としての役割

スポーツイベントは、地方政府による多方面からの公共支援だけでなく、その他の様々な資本が投入されるという意味で、それらは都市開発の触媒としての役割を果たしている (Maassoume Barghchi, 2009)。イギリスの都市には税収の使い道を決定する権限はないが、大型スポーツイベントを開催することで国家の財政支援を獲得することが可能になるほか、官民のパートナーシップを構築するための機会を得ることが可能となる (Suzuki, 2007)。また、それぞれの連邦政府においても政策選択上の影響力は少なく、公共サービスが十分に行われているわけではない。したがって、都市が競い合うようにしてスポーツイベントの招致を目指す背景には、それぞれの都市が中央政府に対し、施設建設に対する財政的支援と公共サービスの補完を求めているという事情がある。地方政府はスポーツイベントがもたらす経済的効果によって都市経済を復興すると同時に、それによって中央政府との間に存在する政治的権力の再配分を間接的に推進しているのである。

1996年に開催されたアトランタオリンピックの後、イギリスでは「文化・メディア・スポーツ省 (Department for Culture, Media and Sport ; DCMS)」が設立された。このDCMSはスポーツ公共サービスの増強、さらには関連組織間の連携調整などを行う専門機関としての役割も担う。中央政府はそれぞれの連邦政府に権力を分散させるなかで、スポーツ分野に対する連邦政府の参加を促し、競技スポーツを大衆スポーツ双方に対する資金投入も増大させた。地方政府は毎年、スポーツとレジャーの面において約1億ポンドを支出しているが、それはスポーツに支出できるすべての財源の50%以上に相当する (Sport England, 2013)。スポーツ公共サービスの目標は、より多くの人々をスポーツに参加させ、より多くの地域でスポーツを展開し、スポーツ競技の成績を向上させるところにある。1998年から2002年におけるスポーツ公共サービスの内容も、活気溢れる学校の創設、活発なスポーツ活

動の推進、そして社会コミュニティの形成と密接に関係するものとなっている。

夏季オリンピックとFIFAワールドカップなどといったメディア・スポーツイベントの開催は、都市および都市政策の位置づけをより明確なものとし、そのことは人々の有意義なライフスタイルの構築や国家間・地域間のコンフリクトの低減といった社会環境の変化にも結び付く。スポーツイベントはこれまで以上に大規模な文化的イベントとなっており、したがってその特徴は大衆の参加に加え、単一の国家のみに完結されないその国際的な意義に見出すことができよう (Roche, 2000, P.225)。

スポーツ施設や関連施設の建設、開会式や閉会式を含めた大会運営、コーチやアスリートなど異なった機能を持つ組織・団体間のパートナーシップなどはすべて一つの目標のもとで実現される必要がある。したがって、これらに関係する人々は共通目標の達成に向けて相互に協力することが求められる。

### 都市の経営者としての役割

地方政府が競って国際的スポーツイベントの招致の努力を行う背景には、地方政府の果たす役割が“管理者としての役割”から“経営者としての役割”へと、その内容を変化させているということがある。さらに言えば、今日の地方政府は“企業家としての役割”を果たすようにもなっている (Maassoume Barghchi, 2009)。これらの現象に関しては“都市資本主義 (municipal capitalism)”といった説明を行うことが可能である。公的セクターは次第に、都市開発の“推進者”から“経営者”へとその役割を変化させつつある (Chapin, 2002)。

アメリカには自治性が高く、財政的にも独立した都市がいくつか存在しているが、そこでは都市の運営効率をいかに向上させるかが都市の競争力の重要な指標となっており、それが選挙において票数を獲得するための重要な手段でもある。多くの都市はスポーツの牽引役を担い、とりわけその経済的効

果を宣伝することでオリンピックやアジア競技大会を招致し、その経済を刺激しようと計画する。また、スポーツのグローバル化に伴って、スポーツイベントがもつ社会的意義は、明らかに多くの専門家にとって重要視されつつある。スポーツイベント関連の議論には国際的なスポーツ・ガバナンスの構造における“中心—周辺”関係が含まれるようになっており、国家や超国家的なスポーツ組織、スポーツ関連企業やメディアの間に存在する権力関係、さらには都市意識や文化の醸成が議論の対象となっている (Maassoume Barghchi, 2009)。

#### “都市の管理者”と“都市の経営者”という役割の融合

地方政府はスポーツイベントを組織する一つの重要なアクターとして、スポーツイベントの準備期間および開催期間中の交通、施設、観光、マス・メディア、市民の安全などを管理する責任を担う。都市経済の復興であれ、都市の繁栄であれ、スポーツイベントの招致を行う地方政府は以下に示すようなスポーツイベントの総合的な効果を求めている。

第一に、スポーツイベントは直接的な経済利益をもたらす。第二に、それらの参加者、例えばアスリートや観衆などをその都市に定住させる可能性をもつ。第三に、それらは短期間のうちに多くの観光客や投資家を都市に招き入れる。第四に、それらは都市の競争力を高める。第五に、それらは都市の認知度を高め、市民の都市に対する誇りやアイデンティティを醸成する。また同時に、参加者と観衆との連動はより調和のとれた社会の形成に貢献する。第六に、それらの開催を通じたスポーツの普及は人々の健康増進に役立つ。第七に、それらは私的セクターと公的セクターの連携を強化する。第八に、それらは人々のスポーツへの参加が正式に認可される機会を生み出す。第九に、それらの運営の過程で多様な社会階層からのボランティアが集まることでそこに新たな社会関係が構築される (Gábor Kozma, 2009)。その結果、スポーツイベントを開催する地方政府は、都市の管理者と都市の運営者という二つの役割をその活動のなかに反映していくようになる。

### 3. 広州アジア競技大会が推し進める都市発展のメカニズム

#### 産業構造の再編と改善のための触媒

改革開放以降、広東省の製造業は〈三来一補〉（訳注：中国における加工貿易の形態：委託加工・サンプル加工・ノックダウン・補償貿易）から〈世界の工場〉へと変貌を遂げ、国内経済の改革と外資導入の相乗的な発展が顕著なものとなっている。製造業全体はこれを機に大幅な利益向上を実現し、その事業は海外へと拡大していくことになる。広州市は第二次産業を大きく発展させ、いち早く産業化の先進段階へと達することとなった。それを受けて、2009年には一人あたりのGDPが13,006ドルとなり、住民一人あたりの可処分所得は27,610元に達することとなった。第11次5ヵ年計画の時期には、広州市のGDP、産業構造の平均的伸び率はそれぞれ、GDP 13.6%、第一産業 1.2%、工業13.4%、第三産業14.7%となっている。

広東省は「珠江デルタ地域一体化計画」の中で、広州市・深圳市・惠州市をハイテク産業や近代サービス業といった新興産業の集積地域として位置づけた。スポーツ産業は第三次産業を発展させる一つの重要な手段であり、とりわけ近代サービス業においては、スポーツイベントはインフラ整備に対する投資の促進だけでなく、旅行業やハイテク産業、不動産業の活性化に貢献することが期待された。そのため、広州アジア大会は世界規模の大型スポーツイベントとして、広州市の再編とグレードアップを促進するための触媒となった。

#### 中心都市における触媒

北京、上海、広州は中国経済発展の“風向計”である。北京は国際政治と文化の中心地であり、2000年には北京アジア競技大会、2008年には北京オリンピックが開催された。これら2つの国際スポーツイベントは、スポーツイベントの国際政治に対する影響力を立証するには十分な事例であったといえよう。そこでは鳥の巣スタジアムのような象徴的建築物が建設されたほか、都



市の地域区分も機能別に新しい位置づけがなされ、インフラの充実や公共サービスの品質向上なども図られた。また、2010年には上海にて万国博覧会が、広州にてアジア競技大会が開催されている。上海万博は中国の経済的・社会的・文化的繁栄に新たな展開をもたらした。広州アジア競技大会は、広州の珠江デルタ地域の中核都市としての位置づけに重要な役割を果たすことになった。

第12次5ヵ年計画(2011 - 2015年)では、都市的集積地域に関わる内容が地域経済発展の重点的施策の一つとして掲げられており、広州アジア競技大会は地域競争力の向上と珠江デルタ地域のイメージアップを推進するための重要なプラットフォームであった。広東省政府は、広州を近代的サービスの中心都市として位置づけている。広州は近隣の佛山(Foshan)と肇慶(Zhaoqing)と連携関係にあり、アジア競技大会の開催はこれらの都市の一体化を推し進める一つの機会であっただけでなく、珠海市・中山市・江門市によって構成される「珠中江」都市圏や莞莞市・深圳市・惠州市の三都市によって構成されている「莞深惠」都市圏といった他の都市的集積地域との連携強化、さらには「粵港澳」(広州・香港・澳門)の一体化を加速させる契機にもなった。

2012年の深圳ユニバシアード大会や香港の2023年アジア競技大会招致への立候補は、スポーツイベントの開催に伴う中心都市の形成および発展に大きな期待がよせられていることを意味している。

### 都市統治の触媒

他の国々とは異なり、中国には分税制という特殊な税金制度が存在する。各都市の財政に関しては、それぞれの都市がその主導権を有しているが、地下鉄や空港、高速道路、大型施設の建設・整備などといった大規模なプロジェクトに関しては、必ず中央政府の審査許可を必要とする。大型スポーツイベントの開催がこういった大規模なプロジェクトを推進することはこれまでに示してきた通りである。交通網やインフラの建設・整備は、中央政府の



政策に対する市民からの信頼獲得の機会を生み出している。また、それらは地方政府の執政における正当性を確保するとともに、都市の管理者としての政府の立場を擁護することを可能にしているといえよう。

広州政府は都市の機能区分を新たに編成し、海心沙島（Haixinsha）を中心とする中央商業区、番禺区（Panyu）を中心とする新型居住区を設置した。また、荔枝湾区（Lizhiwan）には河川からの通水溝を作り、水を引くという「河涌制度」を導入することで旧市区に活力を与えた。こうした都市開発の全体計画のもと、アジア競技城、大学城、オリンピックスポーツセンター、天河スポーツセンター等の総合スポーツ施設も設立され、都市全体における機能的な位置づけはそれまで以上に明確なものとなった。旧市街区域においては、初期産業化時代の無秩序な建設から生じた問題を解決し、現在のような中心業務地区（CBD）が形成されたことにより、投資家たちの注目を集めることとなった。また、このことは産業の再編成を促進するだけでなく、いわゆる「生産者サービス（producer services）」に活力を与えている。その効果は新興産業にも表れており、とりわけ新型居住区の整備が進むことで不動産業界が成長し、早期都市化を遂げた中心都市を再び大きく躍進させることとなった。

2000年に北京で開催されたアジア競技大会に比べると、2010年の広州アジア競技大会ではスポンサー企業による協賛が増加しているほか、より多くのチャリティーイベントが開催されている。大会を通じて得られた経済的効果だけに目を向けてみると、その結果は決して芳しいものではない。しかしながら、この大会は岭南文化が都市のイメージをつくり出すとともに、大会に対する市民の心理的な高揚をもたらしたという意味で、大きな社会的効果を生み出したといえよう。広州アジア競技大会のこうした事例からも、広東省政府と広州市政府が都市の管理者としての役割を果たすと同時に、都市の経営者としての役割を担っていることがわかる。

#### 4. 結論と考察

スポーツイベントは都市開発および都市における統治のプロセスにおいて一つの触媒となり得るが、それらが果たす役割は、時間・空間・行動主体の違いによって大きく異なってくる。時間という観点からみると、スポーツイベントが発揮する機能は日増しに多様化しており、国際政治に果たす機能から、徐々に地方政治、地域経済、社会文化に果たす機能へと移行するとともに、それらの機能を共存させるようになった。空間という観点からみると、スポーツイベントは初期の産業化都市の復興、先進産業都市の繁栄および経済発展期における都市コミュニティの形成に貢献している。また、行動主体という観点からみると、地方政府が果たす役割には、都市管理型、都市経営型、都市管理と都市経営の結合型が存在している。

広州アジア競技大会は、経済発展の過程における特定の段階、特定の地方都市の中心、および中央政府と地方政府の関係性のもとで完成したものであり、それらは産業構造の再編とグレードアップ、地域内部における中心都市の形成、政府による社会管理と都市経営の相互補完といったメカニズムに基づいているといえよう。また、他の都市に比べて、大会開催による経済的効果は高いものとはいえなかったが、その社会的効果は大きなものであったと考えられる。

広州アジア競技大会の開催期間中、中国の「金メダル第一主義」ともみられる政策はメディアからの非難を受けることとなった。これを受けて“多くの金メダル獲得を期待したいが、それ以前に国民全体のスポーツ水準の向上を優先すべきだ”という意見が国内に広がり始め、「挙国体制」的な考え方の再考が求められるようになっている。

こうしたなかで、スポーツイベントはいかにして開催されていくのか。広州アジア競技大会における最大の目的は、広州市民の新しい生活を創造することにあった。スポーツ活動への参加が市民の生活に多様なライフスタイル

をもたらすのであるとすれば、政府は市民のスポーツ参加に関する基本的な権利を与えることはできるのか。市民に対して良好な運動施設を持続的に提供し続けることはできるのか。スポーツのボランティア組織をいかに拡大し、持続させていくのか。より優れた公共サービスを提供していくことは可能なのか。もしアジア競技大会の開催を通してこれらの問題が解決できるとすれば、中国国内のスポーツは長年に渡って蔓延してきた「金メダル第一主義」という考え方を打破し、エリートスポーツと大衆スポーツの融合を実現することができるだろう。

また、凄まじいスピードで都市化を遂げつつある中国国内において、地方政府は都市開発のための触媒として万国博覧会やスポーツイベント、その他の文化イベントなどの大型イベントの招致、開催を行っている。中国の発展地区における経済成長は、ときに“企業家”とも比喻される地方政府の意欲的なイベント招致と関連するところがある。しかし、地方政府は、実際の企業家とは異なり市民からの圧力を常に受ける存在でもある。もし経済的効果のみを追求する姿勢をとり、社会的効果の追求といった点を疎かにしたとすれば、執政の合法性そのものが問われることとなるであろう。したがって、地方政府が都市の持続的発展を考える際には、都市の“管理者”および“経営者”から都市の“統治者”へと、その役割を変化させる必要がある。大型イベントの開催は、地方政府の統治能力を試すための場となっている。多様な資源のスムーズな配分、多数存在するアクター間の関係調整を円滑に行っていくことが、都市における経済と社会の発展を成し遂げていく上での鍵となっている。

## 参考文献

- 任海, 论奥运会对举办城市和国家的影响, 国家スポーツ总局官方网站, 政法司理论处, 供稿, 2006-11-26
- Annette Zimmer(2010), AICGS Transatlantic Perspectives, March 2010 A Nation of Joiners: Sports Clubs in Germany.
- Baade, R. A. & Dye, R. (1990), The Impact of Stadiums and Professional Sports on Metropolitan Area Development. *Growth and Change*, 21(2), pp.1-14.
- Baade, R.A.(1994) , Stadiums, Professional Sports, Economic Development: Assessing the Reality. *Heartland Policy Study*, (62).
- Baade, R.A.(1996) , Professional Sports as Catalysts for Metropolitan Economic Development. *Journal of Urban Affairs*, 18(1): pp.1-17.
- Baade, R., and Matheson, V. (2004a), The Quest for the Cup: Assessing the Impact of the World Cup. *Regional Studies*, 38(4) , 343-354.
- Baade, R., and Matheson, V. (2004b) , An Economic Slam Dunk or March Madness? Assessing the Economic Impact of the NCAA Basketball Tournament. *Economics of College Sports*, John Fizel and Rodney Fort, eds. Westport, CT: Praeger Publishers, 111-133.
- Bernstein (1998) , M.F., Sports stadium boondoggle. *Public Interest*, (132): p. 57.
- Bowers, Stephen R. (1976), "Contrast and Continuity: Honecker's Policy toward the Federal Republic and West Berlin". *Faculty Publications and Presentations*. p.86.
- Coates, D. and B.R. Humphreys (1999) , The Growth Effects of Sport Franchises, Stadia, and Arenas. *Journal of Policy Analysis and Management*, 18(4) : pp.601-624.
- Chapin, T. (2000) , The Political Economy of Sports Facility Location: An end-of-the-century Review and Assessment. *Symposium: Sports facilities and development*, *Sports L.J.* p.361.
- Chapin, T. (2002) , Beyond the Entrepreneurial City: Municipal Capitalism in San Diego. *Journal of Urban Affairs*, Vol. 24, No. 5 , pp. 565-581.
- Chris Gratton, Ian P. Henry (2001) , *Sport in the city: the role of sport in economic and social regeneration*, Routledge, London
- Chris Gratton, Ian P. Henry (2009) , *Value of Public Goods From Sports Stadiums: The CVM Approach*
- Coates, D. & Humphreys, B. (1999), The Growth Effects of Sports Franchises, Stadia, and Arenas. *Journal of Policy Analysis and Management*, 14(4) , pp.601-624.
- Cochrane, A., Peck J. and Tickell, A. (1996), Manchester plays games : exploring the local politics of globalisation, *Urban Studies*, 33, 1319-pp.1336
- Dunning, E. (1999) , *Sport Matters: Sociological Studies of Sport, Violence and Civilization*

Routledge.

- Euchner, C. (1993) , *Playing the Field: Why Sports Teams Move and Cities Fight to Keep Them*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Gábor Kozma(2009) , working paper,The use of sport in place branding activity of the local government of Debrecen(Hungary)
- Getz, D. (1991) , *Festivals, Special Events and Tourism*. New York: van Nostrand Reinhold.
- Gildea, William(1999). *At the End of Century,H undreds of Heroes:T hrought he Years, Sports E ntertainedan d Defined America*, *The Washington Post*, (December 31)
- Gratton, C. and Taylor, P. (1991), *Government and the Economics of Sport*. Harlow: Longman
- Gratton C., Shibli S. and Coleman R. (2005) , *Sport and Economic Generation in Cities*. *Journal of Urban Studies*, Vol. 42, No. 5 /6, pp. 985-999.
- Hamilton, B.W. and P. Kahn(1997), *Baltimore's Camden Yards Ballparks*, in *Sports, Jobs & Taxes*.
- Hannigan, J. (1998).. *Fantasy City: Pleasure and Profit in the Postmodern Metropolis*. London: Routledge.
- Henry,I an P. (1999), "SocialI nclusiona ndt he LeisureS ociety," *New Political Economy*, 4 (July), pp.283-88.
- Hiller, H. (1989), *Impact and image: the convergence of urban factors in preparing for the1988 Calgary Winter Olympics* in G. Syme et al. (eds) *The Planning and Evaluation of Hallmark Events Alder shot: Avebury*, pp. 119-131.
- Johnson, B. K., & Whitehead, J. C.(2000), *Value of public goods from sports stadiums: The CVM approach*. *Contemporary Economic Policy*, 18( 1 ), pp.48-58.
- John Hannigan(1998),*Fantasy City*,Routledge,1998-12-01
- Keating, Raymond J. (1999) , *Sports Pork: The Costly Relationship between Major League Sports and Government*. *Cato Policy Analysis No. 339*, April.
- Kurkjian, Tim(2000), *America's Game*, Crown Publishers
- Leitner, H.(1990),*Cities in pursuit of economic growth: the local state as entrepreneur*. *Political Geography Quarterly*, 9 , pp.146-170.
- Lupica, Mike (1996), *Mad as Hell: How Sports Got Away From the Fans and How We Get It Back*. New York: Putnam.
- Malfas, M. Theodoraki E. and Houlihan B.(2004), *Impacts of the Olympic Games as mega-events*,*Municipal Engineer 157 Issue ME 3 Pages pp.209-220*
- Maassoume Barghchi (2009), *Cities, Sports Facilities Development, and Hosting Events*, *European Journal of Social Sciences – Volume 10, Number 2*

- Michalis Kavaratzis (2004) , From city marketing to city branding: Towards a theoretical framework for developing city brands, Henry Stewart Publications1744-070X Vol.1.1, pp.58-73
- Misener and Mason(2006), Creating Community Networks: Can Sporting Events Offer Meaningful Sources of Social Capital? *Managing leisure: An international journal*, 11( 1 ), pp.39 - 56.2006
- Michalis Kavaratzis(2004), From city marketing to city branding: Towards a theoretical framework for developing city brands Received (in revised form): 30th June
- Noll R. and Zimbalist, A.( 1997), Brookings Institute Press: Washington D.C.
- Palm, J. (1991), *Sport for All: Approaches from utopia to reality*. International Council of Sport Sciences and Physical Education, Sport Science Studies 5. Services:Societal Dependence on Natural Ecosystems. Island Press, Washington, D.C.
- Roche, M. (2000), *Mega-Events and Modernity: Olympics and Expos in the Growth of Global Culture*.
- Rosentraub, M.S., Swindell, D., Przybylski, M. and Mullins, D.R. (1994), Sport and Downtown Development Strategy: If you Built it, Will Jobs Come?, *Journal of Urban Affairs*, 16( 3 ) : 221-239
- Sala, O.E. and J.M. Paruelo.(1997), Ecosystem services in grasslands. pp.237-252 in G. Daily, editor. *Nature.s*
- Segrave, J. Jeffrey( 2000), "Sport as Escape," *Journal of Sport and Social Issues*, 24 (February), pp.61-77.
- Suzuki, N.(2007), *Sports and Neighborhood Regeneration: Exploring the Mechanisms of Social Inclusion through Sport* Department of Urban Studies (Faculty of Law, Business and Social Sciences, University of Glasgow (<http://theses.gla.ac.uk/27/1/2007suzukiphd.pdf>))
- Thornley, A. (2002), *Urban Regeneration and Sports Stadia*, *European Planning Studies*, Vol. 10, No. 7 , pp.813- 8.
- Wilbur C. Rich (2000), *The Economics and Politics of Sports Facilities*, Greenwood Publishing, May 2000
- Sport England (2013) "local government," Sport England, (Retrieved January 19, 2013 [http://www.sportengland.org/support\\_\\_advice/local\\_government.aspx](http://www.sportengland.org/support__advice/local_government.aspx))